

門へ遠 13  
籍 2209  
卷 29

繪本豊臣勲功記三編九之卷

目錄

木下奇計破極勇磯野勢

屬久藏戰死

秀吉源一危獲木村又藏助

屬淺井殿北

繪本豊臣勲功記三編

遠藤尚次殿死信長本陣

属朝倉敗軍

安養寺演誠忠補至家威

属木下勸攻



繪本豊臣勲功記三編卷之九

江戸 八功舎 徳水刑補



木下奇計破猛勇磯野勢属久藏戦死

靈輿龍門小登る响の飛瀑の激たるを賞へるとも磯野

丹波も眞正勢威さびらぐ破竹の像く磯田方五段の隊

仕どい何の苦もなく撃破し旗本隊近く推進しり茲小

信長旗本の魁隊ハ名小員木下藤吉郎なり謀設け一隊

仕小く僅一十有餘人際跡小谷士の立並びて如い小も思

怖の態なりしり磯野が従軍を志く繞る只一播小破らん

由のし小勢を侮怖して突投らんとなりたりと丹波も雲霧

推留勢ハ心得ぬ事小こそ今遠敵の一隊仕ハ信長旗本



木下の速智  
磯野の猛軍を  
拉ぐ



の魁隊をば大蛇小て致固をべんせ。僅一十小是らざる勢  
あり。堪之や隊仗倭、地小く嚴重なれこそ奇計わんなき  
別て此方の隊將ハ織田家小致く他の思て精冠者あり  
漢子房蜀の孔明をま小もあらぬ極敵兒なるをよよく  
實をばと心させんバ。小精が計倭小陥らん。ならを兼思小甚  
なと不得の磯野員正も自己か思慮小迷んされ。猶縁を  
なと進之得を。木下こそを見より。もそ智変化小妙を  
得く。案悟するされ。良將をまバ。磯野が進めぬ心を察し  
備ハ己が陣の案をさるる。却て怖るゆはるる。然るバ破  
て見をべんぞこて。隊仗をあらぬ。若士小指揮を。故意火急  
小推致す。員正の心ゆき。怪しむるも。要時ハ遮て戦ふる。

軍を主將は意小あり己。宜なるる磯野が若士依方僅  
ちで勇氣凛々たりしも大將員正今全く。敵の隊仗小心  
迷ふ。猶縁をまらる。案小慮。こそ小後不諸士輩都人  
漸く極敵を扱られ。動怖るる。見へる小。木下秀吉時分  
とよ。と暗号の鳥院放つやのや。たの方より。蜂次賀小  
六同又十部。福田大炊助。中村孫平次右の方より。木下小市郎  
加藤虎之助。福嶋市松。行相助。堀尾茂助。などのいふ  
英傑を院の。名八百余人。と心魁小。立く。發起八百余挺  
の筒先をへ致蕞ると一時小威を。つらて駈向ハ。磯野小後  
九千余人を院の。ため小隊仗を。破られ。さるる。蜂の房を。出さ  
きて。群り發ぐ小警聲。中ハ。木下が二十余人。蜂次賀堀

△漢池の橋  
△五十挺の  
△百挺の  
△千挺の  
△千挺の  
△千挺の

尾加藤福将一騎當千の勇士達陰推挽く之向ひ糧糧  
旋る歎息と左方右方より掘起まらるるりつて場つた  
宮宮赤田山崎横と段をて一遮も支滞ることありて  
倭く小ありて却れ退く。磯野丹波も又小怒り遠期不及  
びて何れも怖きん進戦ふの外あまらざる此方の謀計小懼  
怖も退退くことやあつた進めくと指揮をなす。自惚と樹  
一を二を小木下が小撃て蕨と秀吉持意を流部  
と士と魁之奥て蕨磯野場小火勢活く撃つけざる千  
余人が之方より。微塵小なさんと突起りまは了得の磯野  
丹波も教刻の合戦小人馬疲も。そまのまらざる自軍の  
と士愈悉く敗せしめ員正今ハ臂力なく。後陣と一隊小

からんのの憾念なり退行とを木下の名軍趁蕨くあま  
さじりけとと退殿かれバ丹波守執く退く。一戦をてハ引  
退れ二と度たり退散を防ぎ漸く後陣小近ひり。蕨  
小波井長政ハ先陣磯野が勝利を見く。続戦び先さ  
ハ流小續ひて戦えんと勢極く進まらるが先魁とちまら敗軍  
とと退返さる小断とを。旗本の勢をりて丹波もと  
救えんの法と新軍のと士小指揮をて不ハ丹波も員正と  
後天秀小ありて退返せしめ長政と不安途好く。軍功の  
かどと賞賜しとこまと隊伍を起しと小なり。落び進まん  
とまらる際もあらせむ。木下秀吉がと千餘騎陣列交差さ  
を推来ると。淺井長政がと千餘騎新隊の精をあらると

あらを傷出せし旗かきまへ。究竟の勇士あり。先陣も  
 赤尾美濃も中島日向も。一千五百二陣の大將淺井長  
 政。同一千五百余騎。こま不従ふ面く。遠藤孫喜右衛門  
 半助。早川右馬允。旗本の魁隊小赤せり。磯野八人馬も  
 病うりて。後陣を援けて。核小隊も出軍をへし。と會し  
 さる。遠駒とを小淺井の魁隊。楊雄の武士輩。を流し  
 敵軍を。木下。堀小池。朝ふ秀吉。敵に勇氣を量り。彼と  
 勝負を争ふ。これ目軍の換亡多う。一時。時を待て。避ん  
 とく。魁隊をり。く。く。く。小競合。時會を。案量軍を。た右。颯と  
 引分て。中を。開け。浅井。堀。た右。の。敵を。四顧を。正面。小大將。信  
 長。旗本の。勢を。返く。小推。出さる。と。さる。より。願ふ。馬と。浅井

長政。自餘の。隊。伍。小。目。つ。け。を。只。旗本。小。破。投。ま。や。と。烈  
 く。指。揮。を。傳。ふ。と。小。魁。隊。の。首。士。正。一。文字。小。末。ト。が。隊。伍  
 を。強。通。す。信。長。こ。ま。を。所。覽。あり。て。秀。吉。敗。走。せ。し。と。お。か  
 され。旗本。た。右。小。備。う。氏。家。安。藤。小。指。揮。せ。し。れ。孫。吉  
 新。を。援。け。よ。と。命。を。さ。ら。ぬ。さ。る。所。へ。初。度。の。戦。ひ。小。敗。ま。さ。る。  
 坂。井。池。田。佐。久。間。が。倫。族。落。び。隊。伍。を。立。整。へ。長。政。が  
 旗本。小。撃。て。薨。ま。さ。森。と。蜂。屋。の。信。長。の。本。陣。小。加。ら。つ。つ  
 ころ。ま。ま。小。より。て。氏。家。安。藤。森。蜂。屋。の。四。將。一。隊。小。赤。尾。中。津。を  
 正中。小。草。と。會。一。探。小。と。戦。ふ。を。長。政。も。こ。ま。小。池。着。く。赤。尾。中  
 島。と。援。け。んと。推。出。を。た。右。より。佐。久。間。右。衛。門。池。田。孫。吉。之。所  
 近。出。く。透。留。め。斬。截。ん。と。ぞ。援。け。ら。る。然。れ。も。を。双。の。長。政。の。首



坂井久藏  
豹怒々  
炮損  
十

豊臣三将



豊臣三将





小流四五酌りたる由一馬の原風を倒さる像く。至もこも小傾るを  
 を浅井の玄士軍増が上小折重り久花成重を殺捉り。嗚呼  
 惜るを遠少平武者。父小若らぬ英傑ありしが。矢運淡路あり  
 をりて。乱軍のうち小戦死せし事。悔もも猶割りあり。遠  
 响坂井股弦の老黨沼田守多満貝澤玄部久花草踏歌陣へ  
 浴入せしを危思く。呼返さんと慕来まで大勢は歌小遮らま。  
 右裂た崩の挿して。漸く尋當らしが首を死骸をころりも。  
 愕嘆ひて死憤を散し。同トく歌中小斬く投おひの像小  
 血戦あり。歌々歳多討捉り。西人とも小戦没し。父の右を  
 政尚のこまを養ふも初ささま。浅井挿部河半助馬井藤五  
 郎依を對歌とす。陽陰小ありて聞ふらしが首子久花長政

の隊小戦死させしと听しりも。忽地寝きこもまも。氣  
 も狂死の像く小あり。一個の愛子を先亡て何れ頼信小  
 長生人。いそく借小戦死せん。憤怒小鬚髪も逆立て  
 衆を貫く威嚇小く。歌出さんとたゝるを。老黨ありける坂井  
 十助。書面小執継り。そつ新嘆息の熱ことなぐ。軍の諸員へ  
 いまを譯らま。沖子息戦死し玉ふとも自方小益あり死を  
 急ぐるの君へ對して不忠なる。割や死しる久藏刀祿の  
 沖吊小もあふらま。志練の活名を兼ふふ。唯々一命を  
 全やしむひ軍は勝利をかがしめま。新要なきと語む。  
 かどに。政尚もも理小羨られ猶縁しる。十助も危路  
 らま。事把り率起り。を歎小後陣へ退るをり。熱る

小浅井備前守ハ魁軍と隊伍をむと小ハ信長の旗ハ  
 一吹投らんと構を佐久間池田の両將前を断てさへ  
 戦ふ然とも爰小遠藤孫右衛門ハ浅井守助の支人ハ身を  
 塵埃小抛く。種虎の像く暴起するを佐久間が諸卒散  
 乱して池田が陣頭ハ奔薨るを長政よりく號ち諸士  
 を指揮して進む機會あり。磯野丹波守も再び二千  
 余人出て推出し。自軍を援く威をふるを然る小本下後  
 吉部ハ浅井が魁軍の怒を避んとた右へ退くあり  
 たるが方儀長政が諸士小指揮を。進傷を復するも  
 故意自勢を遠く遠け。必勝の圖を窺ハたるが後陣小を  
 磯野員正召び出陣するもへ池田佐久間が隊伍のまを

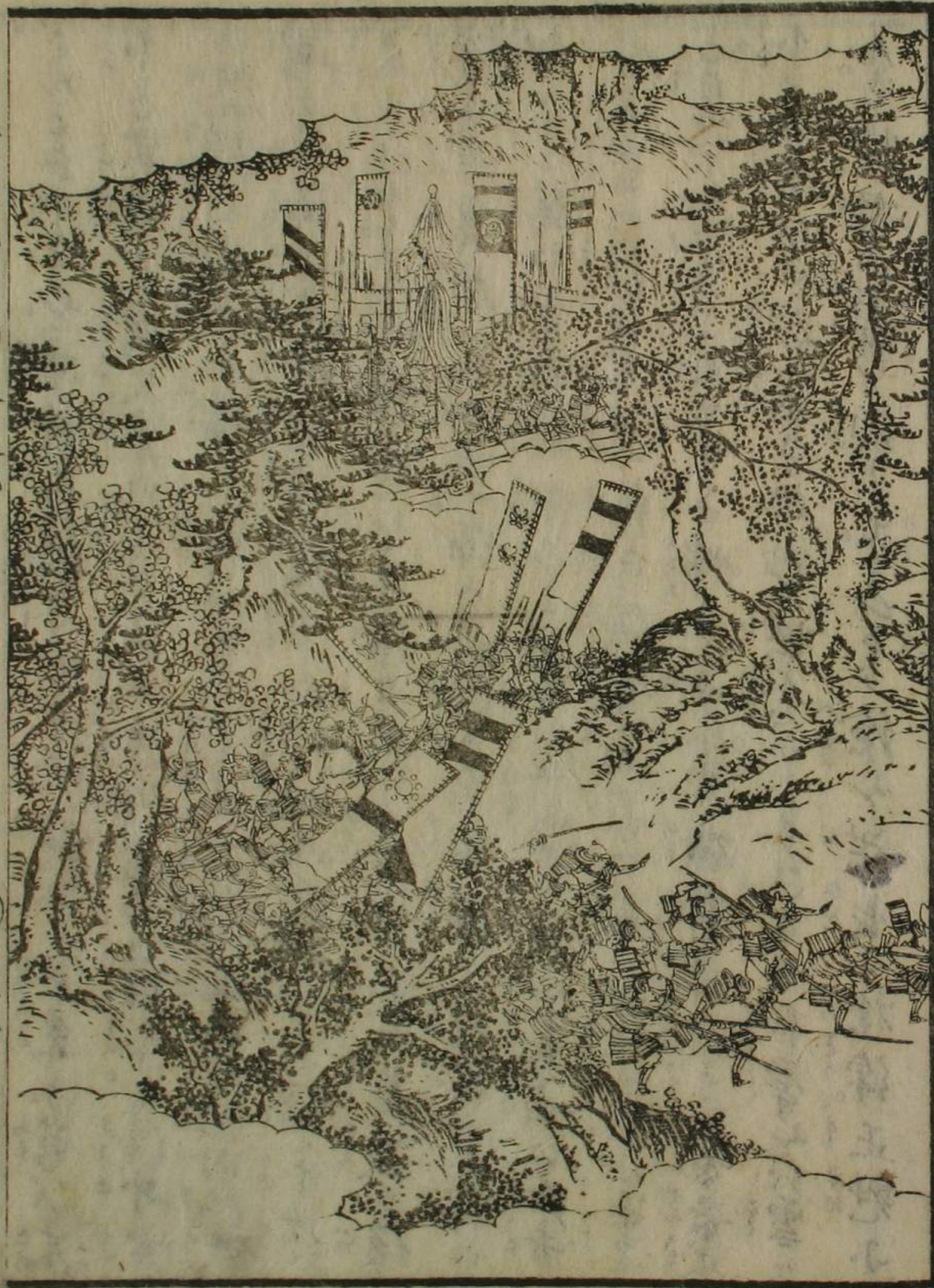
戦ハ危ありければ本下茲と自勢小指揮を。浅井が  
 陣背へ推迫し。二千余騎を一隊小合せ旗本勢と磯野  
 勢ハ降畔を割く。薨地小致投る鏡綱く撃薨るも磯  
 野員正こそを看く。急小自勢を纏貫はし本下勢を遮り  
 尚め旗本勢を敗らせまじと無味く突て薨る。秀吉頭て形  
 一こまが。岸小自勢を二隊又分。浅井の背と磯野の面を  
 砲小て敬辱め。虚間を窺ひ破らんと。隊伍を交さざる攻  
 薨る

秀吉隊先獲本村又獲肥前。属浅井敗北  
 豊君の命運實小天小任を向ふ不勝だんハ遂小軍を返を  
 事ハ一然まが本下孫吉部。浅井が隊伍の背を斬る

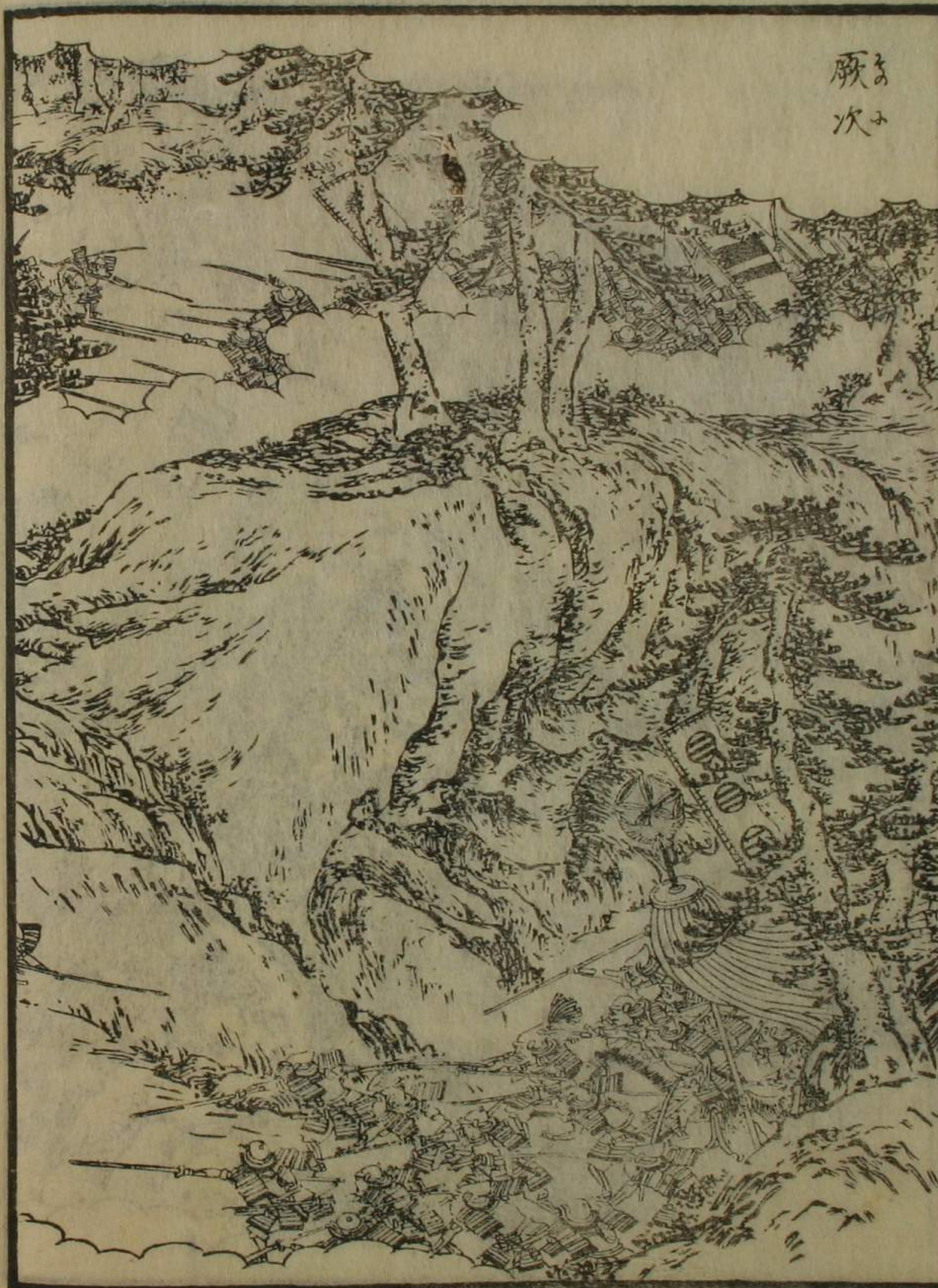


織田浅井  
三田  
村道  
大  
合戦





豐臣巴三編卷九



厥次

豐臣巴三編卷九

さんとわたりとぞ磯野丹波守二千余騎出て出来り。落び木  
 下と突圍を。備又東の一方に。大將信長の旗本と淺井房  
 の先陣と火水の像く戦ふ。又次の一場に池田依久  
 間が兩隊と大將長政が旗本と奥味んや挑合ふ。備は池田  
 本下好里。二千餘騎を二隊にわし。東は一隊の長政が後  
 陣小突着戦ふ。西の一隊の丹波守が前隊小沖投り。新の  
 如く。之場の合戦。厥際およそ十餘町。多銃の音。喊の声。并  
 合又音の活死。不見織田淺井友家の存亡。這一戦小あま  
 と見へく。凍くおぬもま。怖く。中も磯野丹波守の最前本  
 下との戦ひ小吹崩され。と懣念小ありひ。その恥辱を雪が  
 んと憤怒の勇を顯して。さうらう。鏖を。銃長小槍線。正魁小

進んで戦ふ。本下方の勇士達。是も方らどと。競。薨。中も  
 備觀の加藤福清。行。桐。堀。尾。蜂。次。賀。正。ん。ど。面。く。教。條。は  
 槍。の。把。才。の。塵。毛。より。漉。る。白。し。名。の。金。玉。より。重。ん。と。て。此。場。を  
 先。途。と。戦。ふ。中。小。加。藤。虎。之。助。清。正。の。他。小。備。走。り。功。を。さ  
 さんと馬を先頭小。挑。孫。も。せ。良。款。の。目。小。當。ま。り。面。背  
 子。足。の。嫌。ひ。なく。瑪。仕。難。ふ。を。教。仕。極。威。を。き。ま。め。て。強。旋。を。  
 老。黨。井。上。丈。九。郎。危。き。事。小。あり。ひ。小。加。藤。が。書。の。傍。小。率。副  
 主。と。佐。く。勇。戦。し。る。備。も。磯。野。が。隊。伍。の。う。ち。より。小。吹。野。孫  
 右。部。上。相。影。吾。宮。本。彦。次。郎。飯。本。之。右。衛。門。槍。右。衛。門。杯  
 り。武。士。會。是。一。騎。當。千。多。が。五。百。有。餘。強。襲。を。あ。ら。小。山。の。崩  
 落。る。像。く。秀。吉。目。當。く。強。來。り。其。勢。威。の。只。單。小。孫。吉

角と殿の外。余念なくを見入る。遠响秀吉の馬首小  
 生憎從を分散して。僅の兵士ありける也。五百余人の  
 強敵小。擧起られて。礼強く。藤吉角が。陽を小勦す。  
 本下小市。中村孫助。本勦を。清野彌。清藤井  
 又右。角。出逢へ。暫時。かた。戦ひ。た。敵。は。極。威  
 銘。多。ま。た。こ。ま。も。遂。小。敵。一。こ。く。動。め。た。起。と。丹。波。守。殿。や  
 遠隊。の。傳。風。あ。ぞ。進。め。く。と。諸。士。を。烈。ま。じ。大。勢。一。度。小。攻。起  
 う。バ。本。下。勢。の。く。四。面。小。散。れ。を。加。藤。自。從。遠。小。見。て。臆  
 の。像。く。馳。来。り。自。軍。を。助。け。く。磯。野。勢。を。二。回。遭。か。と。退。久  
 を。秀。吉。こ。ま。小。聲。力。を。得。く。ま。り。く。陣。を。歩。揮。く。一。世。の。大。事  
 己。諸。勢。を。懋。ま。し。血。眼。小。あ。り。て。相。戦。ふ。處。も。磯。野。軍。を。

必死と覚期を考へて。擧ぐも。撃。こ。も。殊。と。も。せ。を。進。不。退。小  
 拵。さ。り。由。本。下。隊。位。別。種。な。ま。ど。も。如。何。も。小。勢。あ。る。を。以。て  
 再。び。磯。野。小。退。起。ら。る。既。小。崩。ま。ん。と。ま。る。處。へ。惣。統。一。と  
 磯。野。が。備。背。面。の。方。より。亂。起。更。務。地。着。し。て。陣。裏。の。他。軍  
 も。自。軍。も。一。様。小。底。事。也。と。見。え。く。あ。ま。り。その。牙。の。大。け。の。六。尺  
 小。楯。之。四。寸。も。言。く。覺。え。く。大。張。勇。糧。の。偉。漢。後。者。を。も。具。せ  
 を。只。卓。個。本。綿。糸。り。て。か。ど。り。く。黒。丸。糧。を。篠。原。小。被。調。桃。形  
 の。飛。と。背。上。へ。投。ぎ。柄。蓋。を。用。ひ。て。巨。礮。を。度。げ。遮。る。始。と。悉  
 く。肩。腰。腰。法。つ。む。小。信。せ。礮。流。く。と。人。礮。抛。着。ら。ま。り。て。手  
 折。あ。ま。り。こ。ま。小。當。り。て。首。を。う。ら。あり。或。ハ。馬。の。足。を。塞。ぎ。源。田  
 一。逆。點。小。ま。も。あり。その。強。勇。の。糧。ま。こ。く。現。小。白。浪。も。て。礮



木村  
又藏  
鉄拳  
浅井勢と  
敗る

豊臣記三編卷之九

十四



豊臣記三編卷之九



立たる素羅延神の出現。魔界を暴るが像くあり不得  
 小驕りし磯野も。こま小敵を事あさる中七用ひて  
 通一たるが。彼大漢を遠隊位と穿徹。氣色もなぐ。木下  
 勢小加らして。磯野が魁を抛倒。虎責をりて。揮き  
 一。磯野が老堂と村新吾。宮が彦次。これを見ん  
 意大獲あり。走軍を。執取さる。小自軍は兵士を  
 妨ごど。擲止る。二騎をこく。塗練整へ。馬強。唯  
 一。獨小と下。擲小。突出。さる。右の。血。頰。楚と。撃。指へ  
 力。信。せ。小。便。操。る。上。村。新。吾。ハ。塗。小。括。ま。て。馬。十。控  
 と。墮。り。し。と。起。し。も。こ。を。擲。く。掣。休。せ。首。擲。破。て。腰。小。結  
 若。影。吾。が。馬。小。飄。流。と。踏。至。り。操。棄。る。塗。捨。舒。嘆。と。二。喝

馬小拍を。從横。を。障。小。擲。也。塗馬の。方術。鬼神の。像。く。夫  
 物も。新。や。と。見。る。う。ち。小。驕。馬。武。者。と。騎。擲。落。を。と。擲。破  
 孫。を。帝。大。小。怒。り。を。法。の。暴。士。刺。止。る。と。喚。て。雲。時。戰  
 ひ。が。い。う。で。う。是。小。敵。一。得。へ。ん。備。を。じ。の。と。迅。る。と。趁。着。三。伏。時  
 ぐ。獲。の。單。龍。を。小。隻。手。掛。ると。見。へ。る。し。が。中。小。擲。け。首。擲。破。り  
 又。や。も。播。威。の。聲。を。ん。と。呼。と。暴。小。あ。ま。て。を。強。と。ま。六。傳。風。あ。じ  
 磯。野。勢。勇。士。を。多。く。殺。さ。し。也。一。身。も。魂。も。失。ふ。を。り。散。る。小  
 の。り。て。亂。起。木。下。秀。吉。最。前。より。遠。擲。き。を。見。替。へ。て。奇。突  
 の。思。ひ。を。り。う。る。が。自。軍。を。佐。一。那。勇。士。殺。さ。る。援。へ。と。指  
 揮。さ。る。か。ど。に。加。藤。福。馬。行。桐。壺。尾。蜂。次。賀。稻。田。併。之。れ  
 魁。小。と。接。起。り。擲。き。し。う。が。遂。小。磯。野。が。二。十。余。騎。給。く。と。一。と

敗走を員正一個怒り罵り。各士を慄し戦ふんとするとい(其崩落し)僻まき。達怒をたれ術も無く。退らん事の朽懐さ小戦死せんとおもひ。至人長政魁軍小ありて合戦最中。長政の隊に馳加たる。彼大漢のなを倦む。磯野が残を退殿。四角八面小掘起り。起火水小なま。傑戦ひす。秀吉まを感佩。渠のいり。新量小自軍を援。渠を招ひて。對面と。軍使小命して。偉漢を磯野。老黨。河田。権右衛門と戦ふ。木下が軍使馬を馳倚。耳傍近く。大書あげ。遠小自軍を依助。勇士。怖く。是の姓名報。と。呼ら。され。彼大漢。島田

權右衛門と戦ひながら。小居の加藤。孫虎之助。が家長小お。木村又秀と。重より。は。戦場中のを。禮を。沖免と。暮朝。機を。遂小島田を。擲貫。首。擲。く。こ。り。の。懼。し。も。こ。こ。の。魏。ゆ。ら。も。以。上。こ。の。級。の。し。た。誠。擲。へ。木。下。の。陣。へ。還。り。く。然。る。に。木。下。の。使。番。の。其。姓。名。を。所。より。え。やく。木。村。河。田。猪。負。も。視。決。を。返。り。て。形。と。告。ぐ。秀。吉。諸。の。希。來。虎。之。助。と。伯。來。せ。し。壯。士。小。て。あり。つ。る。よ。る。奇。代。の。勇。士。あり。つ。る。と。或。の。情。さ。或。の。感。下。は。遠。正。小。形。と。告。る。小。ぞ。虎。之。助。大。小。龍。び。諸。の。信。義。の。武。士。あり。先。伴。來。り。ゆ。せん。こ。て。馬。を。逃。せ。く。馳。行。木。村。又。藏。大。張。あり。つ。る。今日。此。勇。戦。感。る。小。な。が。割。り。あり。是。小。より。て。加。藤。清。正。出。陣。ふ。て。ま。ま。小。と。ま。さ。う。け。ら。ま。て。又。藏。と。

馬より飄流と逃たり。奉公初の河當土宜小瀬く新まを  
 倣果せし河原とどしむるべしと殿捉一藏を加藤小探せだ。  
 清一正まをく。號をび侍帰りと木下小謁せし。孫吉舟馬より  
 卸て對面なり。禮く是日虎之助が。門譚少て所つる。約を違へ  
 ぬ信義といひ。且今日の戦風秀吉始感嘆せり。遠戦場へも  
 何ごとく。来りしぞやと訊き。木村又藏覺を脱き。懐心流き  
 小居先小慮らむも。加藤刀祢の恩義を慕り。遠君ありてハと  
 思結はす。つんと約せし。老母の病氣分抱のため。一端ハ  
 別を帰し。今日已若小母も身罷り。孝の終りの事ハ。お  
 まは切く七日を吊ひ。得然と桑向つららんと。思ふ様令  
 けら今日の合戦河大軍と兼所。形の時弟小交り。合さば報

小も有り目も又亡母人の供養小も。戦功とて。款をせむべし。一校の  
 花小も増らん。思起て。取らば。散を。馳急も。ばえ  
 や合戦最中。主人を尋ぬ。帳さく。直小。敢投。徹力を竭し。  
 後の藏を。投得し。小身小。勝る。河藏小。頼り。忠愼。いと。重し。  
 あらまは。孫吉舟。操込し。感佩。と。實小。頼怙。ある。勇士。ら  
 ぬ。遠合戦の。敗まら。ば。と。思。恩賞。と。ぶ。た。あり。と。大。小。賞。配。せ  
 ら。ま。た。れ。ば。虎之助。も。際限。な。れ。程。美。悦。なり。我。所。賞。少。ハ。過。分  
 あり。と。嘆。息。こと。と。方。あり。と。井。上。大。九。舟。も。又。花。が。勇。戦。を。え  
 て。愕。死。感。なり。累。て。明。友。の。契。ひ。と。な。り。と。是。更。ハ。圖。を。清。井。備。前。と  
 長政。の。池。田。信。久。間。が。隊。江。と。薨。崩。し。猶。進。ま。んと。と。る。木。下。後。の  
 方。より。木。下。勢。單。騎。急。小。突。投。り。く。驚。れ。た。ら。も。遠。敵。を。勝。て。こ



此も忠義もうち忘る先軍あり敗走し追撃せしむる軍  
 員を初らむ。長政憤怒小懐なく戦死せんとありたるを老  
 臣飯久小謙めを理小擧を退れり。磯野丹波も員正ハ  
 此小来りて救えんとをまじも自軍ハ既小惣崩こり。防  
 戦をむた方術もあらず。五百の自隊せうち纏先敵を  
 し居城あり。佐和山當りて退行り。織田勢十分小後  
 利を得し各統勇毅合殿提こころの敵級をまじもくと  
 本陣小持出大將の實檢小備へんと祇候せしこそ統まし  
 多し  
 遠藤藤尚次撃死信長本陣属朝倉敗軍  
 好て自家と依りんとをまじバ李冠丸履の形ありて武名

全ふまじバ纏急小勇の誂を納り誠小軍ハ信長んハ忠功  
 全ふまじバ纏あこもを懸る小浅井家の謀士遠藤孫右衛門  
 尚次ハ今日自軍勝利を得る。信長を殿ハ好生をまじ。備  
 亦自軍敗北せ。戦死の外他事なし。と預る覚悟を極め  
 一事故今朝より長政の旗本ありて血戦をま事歴あり  
 一自軍惣崩とありたるを視る。栖家が死をた死响あり。と  
 昂時小覺せう形なり弁。血せりて満面を深淋らし髪を釋く  
 一糸掛自軍の武士の戦死敵を隻手小掲げあまむ。礼  
 軍のうちを實統織田は駿率小終難くまじ。織田亦は  
 諸士うちをまじもくと捕る敵を拵出く。大將の實檢を備へ  
 んとす。是れ見ると喜右衛門得ると諸士の群小ら難り。



信長の浙傍をく観ひ進方僅小ぞ殿人と計りたり。彈正忠  
 信長の勝利小心院と慈と床几小うり。吟く徳と信長は徳士の  
 戦功を賞義し。余も亦も在るを不(幸)なるを信長は  
 声せりて。争代の曲者せ殿投り。遠敵實捨小備へん。  
 と呼たりあぐ進る。行中半き湯脛と観く。争久信小  
 目注せし。快意久作重友実と走。鬼つて赤衣の  
 が面小を塞り。首こそと認せもこそ。こそは御扱る  
 敵小は直小言出つる。通らんとを尚も遮り。こそ  
 こそ好軍適とをど。眺見て。と組んど。喜右衛門是  
 と做損と。欵嘆朽憾やと。一声叫び。拵る。敵と信長  
 へ撲他と抛。久信と姑く接合力戦。遠藤赤衣

尚信ハ今朝より殿度の戦ひ小五體全く倦果これと只勇氣  
 の烈しく大將信長と殿人の壯とこそ。観ひと  
 こそ。久作も大力の勇士のまは難なく遠藤を捉へ引  
 俯首擡破く。指上る小を。信長大小感。たす。行中久作  
 微其。予。信小。花。ふ。る。る。小。登。く。も。馬。同。し。は。る。る。と。ま。は。る。く  
 感悦し。多ひる。信所へ浙加勢より。幾多の敵級執り。提  
 軍を執るや。今朝同時小軍馬を。九千余人と  
 隊小分。姉川當り。推出。朝倉勢と合戦。り。大將  
 預り。計後を殺け。敵と切。編拵んと。偶にぬ。信長は  
 けて。故意四五町退せ。信長は。信長は。諸勢。小。息。をも  
 續を。逐。来る。小。敵。と。引。振。之。千。金。勢。を。左。右。より。殿。せ。

真柄 十郎左衛門 討死



真柄  
十郎左衛門  
姉川  
討死



真柄 十郎左衛門 討死



二千餘騎と正面より一層小岬と引返す。之方一時小播起す。敵の大勢退くも引得を宛紐谷小陥る。如く。河加勢の陰節間とつらつらける中へ右側方倒小岸。鬼將時小死人の山とみと。物倉の大將孫之介系健も乱軍の中小捕巻。既小危りたるを。朝倉家の勇將真柄十右衛門。小國を双の大力小て。弟丈不當の怪をなす。五天之寸計もある大を力せり。廻。鬼神の像く小異おしり。其子十藏りとも小毆投て。一バ自軍も十分勝利あり。河心寧く在る。銅雄。治伸。一。り。其柄十右衛門。河村の大を力。今程。信長こそを。河。臨。大悦あり。其。惣軍小合せられ。捷成を揚させ。多ひ諸士と一。小。聚めらる。河加勢も程。入。歸陣。ましく。信長殊小。称。歎。

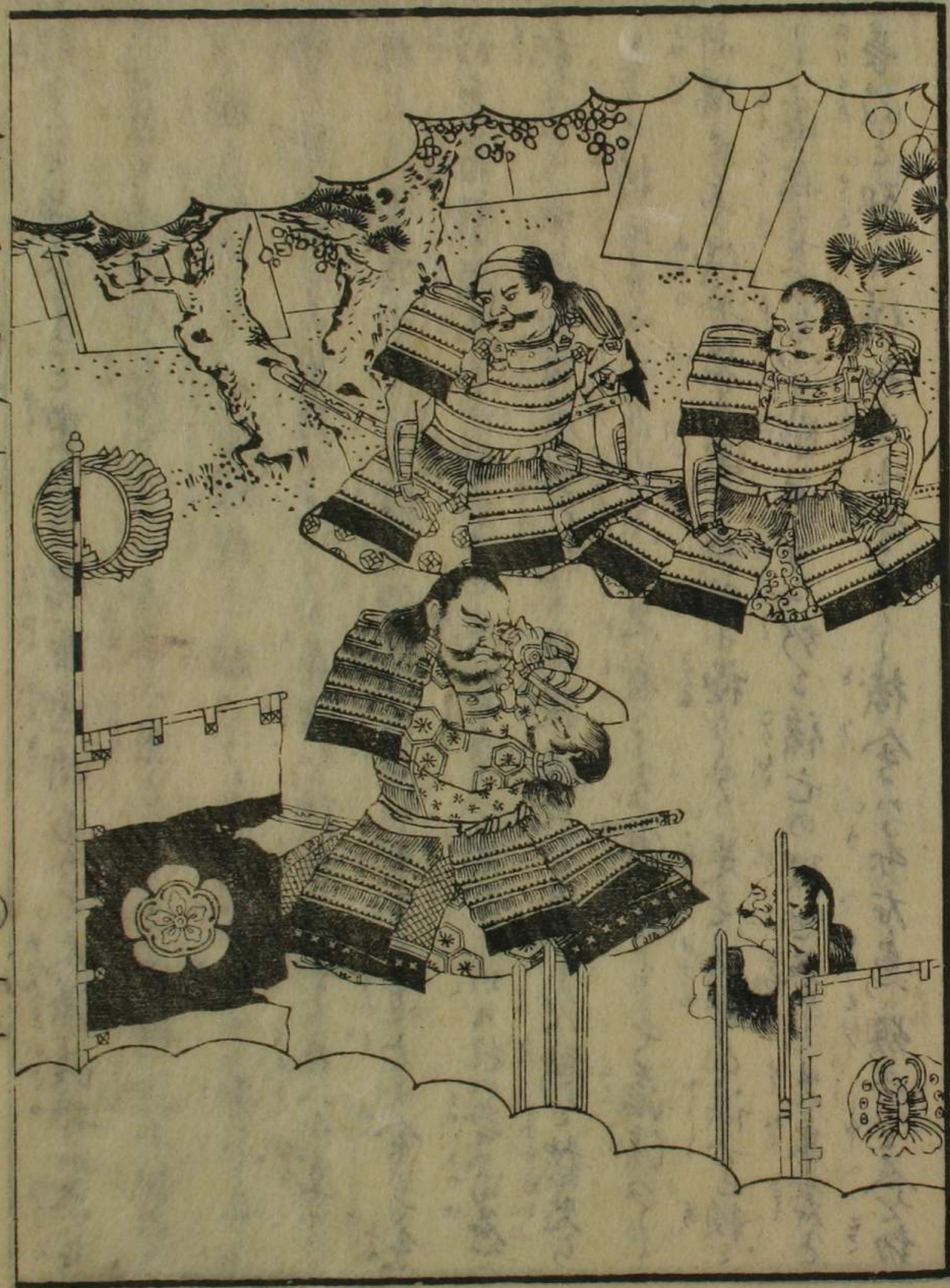
あり。最懇切小。通安。應。せ。り。是。然。し。後。小。捕。さ。る。敵。を。突。撃。さ。す。と。命。せ。あ。り。河。加。勢。も。河。村。の。戦。死。將。卒。の。敵。を。都。築。ま。さ。る。二。千。二。百。餘。級。小。懸。べ。り。自。軍。も。一。千。有。餘。人。戦。死。あり。と。記。され。ま。す。近。代。未。用。の。大。合。戦。あり。強。小。敵。好。の。信。長。も。嘆。息。な。し。て。お。し。り。る。が。新。軍。を。多。死。敵。級。な。ま。す。良。敵。將。の。敵。と。見。ゆ。ま。さ。は。姓。名。分。り。あ。ら。ざる。あり。活。捉。の。敵。士。を。呼。く。伴。小。せん。とか。お。り。め。さ。し。誰。か。あ。る。と。命。ま。さ。る。機。合。り。る。茲。小。河。加。勢。の。長。居。安。高。寺。之。所。た。其。後。世。の。今日。長。政。の。旗。本。小。直。之。諸。軍。小。指。揮。と。ま。さ。る。自。軍。惣。崩。あり。る。由。へ。主。君。長。政。を。落。さん。と。踏。止。く。戦。ひ。と。雲。霞。に。像。き。織。田。勢。小。示。後。た。存。く。提。綱。ら。も。遁。出。る。小。道。な。り。不。へ。流。丸。飛。來。り。て。安。高。寺。が。

騎つる馬小當りし。忽ち小撞と墜りし。鐵田勝家多折重りて。遂小活捉返りし。をみるも遠趣と信州を。鐵田殿臨脱び玉ひ。願と上れ武士と捕へり。之新た忠の平。知已は早く。伴。訊問も。死詞ありて。乞士小命と。安養寺を信長の。所帯へ出さまけり。

安養寺演忠誠補主家威 属木下勅攻

窮る小隙とて。座せざる。真計大勇と謂ふべし。然。安養寺之。所。た。世の淺井家。之。双の勇士。な。も。運命。計。期。を。不。小。や。遂。小。擒。虜。の。身。と。あり。て。鐵。田。殿。の。所。帯。へ。出。さ。る。信。長。と。是。と。所。免。あり。て。郷。を。解。せ。られ。信。長。を。近。く。招。せ。玉。ひ。予。長。政。と。縁。者。多。る。こと。も。是。海。が。料理。あり。し。小。命。も。合。

戦小及ぶ事。私の爲と。所小あり。又。下。萬。民。の。こ。め。と。かり。ひ。公。方。の。命。令。と。當。り。て。朝。倉。義。景。の。を。禮。せ。れ。小。長。政。これ。を。憤。り。遠。遣。別。心。せ。ら。る。茶。殿。長。と。て。新。事。と。何。と。誦。め。給。さ。る。や。遠。朝。小。監。び。て。悔。も。返。る。と。予。海。を。助。け。ん。小。平。旗。本。に。降。属。を。べ。り。や。い。ろ。ろ。と。命。せ。ら。る。と。之。新。た。忠。の。平。所。屬。き。所。芳。志。有。る。と。も。是。も。譬。ハ。君。の。所。家。人。あり。て。敵。小。捕。も。是。存。命。して。敵。家。小。隨。ひ。仕。へ。な。ば。君。少。い。ろ。お。か。し。め。を。そ。や。是。と。り。つ。て。長。政。の。心。と。所。察。し。玉。さ。る。と。之。新。た。忠。の。平。が。身。と。小。窮。り。す。せ。ば。二。君。小。死。も。存。り。又。長。政。の。絶。好。と。諫。め。さ。る。ふ。い。あ。ら。さ。れ。も。老。を。久。改。強。信。小。と。盟。を。守。る。心。深。く。つ。ま。と。又。小。背。れ。ご。く。區。と。一。君。小。幸。ひ。ご。き。道。を。り。つ。く。休。と。と。得。を。新。計。也。此。上。ハ。只。小。子。小。死。を。



龍ヶ鼻の本陣の  
安養寺三郎左  
衛門遠藤が敵を  
視る歎息す



賜ふこそ辱なりと稟を信長所ありて大張浅井の忠臣  
 うみ然もあらんとおせしとも敵小稟を予方僅汝小訊ぬべ  
 其詞の別あり今日毆捉し敵のうち小姓名知ざる勇士あり  
 譬ふ敵小もせよ忠死を遂ぐる英雄と使率の敵と存一不空しく  
 捨んも本意小あを能く視許て名を付すと近士小命じて分  
 明あぬ敵級あまも持出させ安養寺小見せめれば各當名を  
 記しと。末後小及んて久作が搦捉得るあやに敵を執見ら  
 せよと持出さふ之舟た束つ一見看るより潜懸とて落涙す  
 汗傷はしや浅井家の運を脱小極りたり是を浅井の謀士と頼  
 し。遠藤喜右衛門が敵ありたり。移る後亡の理を察し。先乗君と  
 長政と頼く佐和山小命せし。棧舎ハ舟右衛門頼小主人を劫

め君を毆んと討つこといさも久政長政兼謀せを交小將受この  
 遭ハ新親の義を賢く制し。能令朝倉小背くとも君小随ひ  
 まわらせよと家令全うしと謀し。是も久政更小用ひしを戦  
 らく利ひた事を解明奈し。夜希愉快酒宴せし。然て戦死  
 と決せしあり。右衛門戦死せしうハ長政を補佐すも倫族の  
 外小なりとあり。ハ悲嘆まこと小うたうし。小子も死を急死奈小退  
 着ふふ存たを其の故く首せめさきと謂小信長小も悲心流しりうめ  
 備ハ名小員ふ右衛門つらるる。懐勇士の戦死せしも是久政が強情  
 由あり久作もす。存外の良敵捉しゆはありとて屢當責ひ  
 られてのち再び安養寺小向させ。あひ是より直小小管へ推考  
 此威小。あしと攻んとあり。汝が不存いり。そやと訊くあは

之身たる難然とてらち笑ひ浅井此ため不死を急死せし  
 関らぬ小子軍の進退を問ふ。緯近來表裏の所詞あら  
 たり。然し兵を言上せぬも経るも似これバ後花をまじ  
 君の賢意多くはこそ長政敗軍せし軍ゆへ遠勝ひふ衆し  
 至ひ直地小谷へ推進す。系取らんかか。わらふべけれも  
 悲しくは漸得利ありとて。且今日此漸勝利を無ふる  
 事の出来らん歎其故急磨とこそを推し今日の軍小長政  
 こそ敗軍つらなりひども久政の遠謀の意ありて強強の勇  
 二千余人遠使と小谷を固めこそ君大軍あて進るも切  
 怖る事なりらん。別々小谷に要害小瀬あり。谷根矢丸も石  
 足なけむ。容易落城を成さしめり。君の軍大勢なきも

尋常ありぬ大合戦して諸難煩勞を極めこそ六軍事の用不  
 達づれゆは多くありとも思ふを。殊更極暑の天氣小冒さ  
 色いりて歎自由の捲きんや。困乏百重ありとてども怖る事な  
 し。兼所小谷備す。無事小返らば回主久政の強をとり門く  
 今宵河津へ夜段はし君の大軍を徹摩小を。長政小此  
 意属バ暑花は河津事なりとや。且その切の西二日も遠所河  
 留はしぬ。朝倉義景うねるを来らん。こまらの強をを増副へ  
 浅井新倉謀ト合せし。落び合戦小及びは。是すこそ君の軍  
 強利ありん事ながつらじ。思見頼連。形般なきとも軍意ハ  
 大將河津心小あり。そや遠上の河津尋ねて用首を別らさ  
 ひへと云。詔陶くことと。憚る色なく。添削るぬ。理を演まは信

長門守と新威あり。汝が嗣至極の理あり。予が心小解備ひぬれ。一應軍を帰させ。汝ももも。曰好むまは助けて降さす。此の同。主人長政を補佐て。再志戦を懋むべし。此我々の道。選さ。めろ。世小信長などの軍慮をさる。大將のまも心小執英。と抱く。小得心ならぬ。倫軍小嗣を親て。吉凶を試す。澤邊。二。選し。今天も。勢中で。大会戦。十分の勝利を得。ことなき。勇氣。熾小有。安養寺。嗣小迷ひ。忽地。勇氣を振られ。心。と決。て。陣。を。越。と。拘。さ。る。遠。向。未。小。藤。吉。野。の。浅井。敗軍を。と。い。も。困。断。ひ。ら。じ。と。猶。も。念。強。く。殘。兵。軍。戦。悉。く。款。地。還。小。趁。散。し。自軍の。うち。小。終。ま。在。り。や。志。ぬ。らん。と。遂。小。あ。ま。し。と。穿。鑿。む。新。旗。本。の。駿。卒。們。を。限。り。く。詮。議。を。

めろ。本陣。の。表。向。還。かり。し。漸。く。兵。今。春。陣。し。定。め。て。直。北。小。谷。城。推。進。せ。し。事。あり。と。曉。嘆。を。見。ま。す。將。卒。借。小。儀。く。こ。し。て。進。む。態。あり。秀。吉。案。小。相。違。は。れ。焦。燥。て。新。威。一。個。公。た。し。何。と。新。般。小。便。く。と。寛。を。お。わ。り。至。ふ。を。也。款。小。防。衛。の。準。備。お。れ。る。も。登。く。進。費。し。る。ふ。べし。君。が。勇。猛。を。須。ひ。む。ふ。今。遠。向。め。は。な。り。も。や。使。く。と。勅。む。ま。も。信。長。の。苦。笑。あり。り。小。谷。の。海。が。詞。勇。小。暢。く。廣。事。を。也。今日。勝利。を。得。る。こと。も。願。う。戦。破。く。も。入。炎。暑。小。冒。され。自軍。悉。く。苦。し。め。り。遠。向。を。も。推。進。す。とも。小。谷。の。要害。堅。固。小。して。中。野。守。久。政。小。強。軍。の。名。を。稠。密。に。容。易。に。落。城。す。と。ぞ。好。て。自軍。の。破。き。と。あ。る。べし。汝。が。東。西。十。分。小。満。と。れ。の。災。あり。と。こ。そ。誠。む。ま。今日。の。勝利。十分。

こまに遠別勇氣心懐つうらむを故小令度ハ帰陣をべしと究め  
 るると宣ひしは孫吉郎大小累阿厥ハ怠慢あるをがしめしを  
 や東西十をあらハ災過ありとて撃つた敵を敵もせを患を残  
 を事やとある必務の圖小向せん小強むとりの事あるべうらむを  
 自軍を固々と宣ひても敵も是亦勞乏あり。さう小も自軍を提  
 關小説をを得る強勢あり。敵も敗軍小軍を棄てれ懼  
 怖るその中へ破竹の如く勇せりつて。舊地小推進せん小も  
 戦もせして敵の脱氣とる印とく小足ぬべし。小もは要産賢固  
 つりとも守將勇極あらざれば忽地落殊うらひさうん長政ハ  
 御智勇ありといども軍敗は後なきはさ。軍屈して諸勢ハ  
 指揮全うさるりはつては又久政小強もありともよも二十ハ過

べうらむ況敗軍小力と善落し。強もも勞兵小等しく。心小  
 恐怖と抱きぬま。速く敵ハ戦ふ。心決せぬ。直地小進  
 んで攻る响と切力を勞せして勝利を得んこと疑ひ。致る必  
 勝の圖とる。空しく漸帰陣し。敵も脱びて防衛の  
 準備。脱氣と奮ひ朝倉と謀ト合せ。勢部へ待設み。バ  
 空目小落城なり。今日漸帰陣の思達ハ若南一個小  
 あらざるべし小定め初め。軍あらん。執事ハも。勞儀倍。不  
 祥の詞を云はせ。天は賜とる。後患をせ。討合。敵  
 諸國の動乱を平治す。善民を救えんとおがしめ。討合。敵  
 ら早く敵らつらうらむ。敵小あわくの時節を待く。謀せらる。今  
 足清井ハ撃つた時。小落城つらうらむ。船倉武士ハ戦果を

のり。越前も忽地河掌小籠へ。然るに遠来河帰陣あり。
 清井朝倉のより。この好六角の倫軍を。蜂起りて。長政
 所。便とて。威を揮はん。然るも向て。君一願小。諸方の欲を
 防たし。終に。神意を巡らされ。然るに。道と強て。謀むる
 にも。信長さまを。悟り得る。一塔内陣を。復らる。小令。又進發の事。を
 宣さる。諸卒疲勞小。堪る。て。懼を。令む。軍も。あらん。今。故に。帰
 陣して。田原へ。征伐を。た。た。不。論。天。命。小。ま。し。清井朝倉の軍
 と。この。信。小。と。弁。並。も。仙。量。の。事。を。行。做。奈。さん。是。征。軍。を。返
 さんと。秀吉が。諒。を用ひ。も。を。惑。を。取。と。詮。方。な。れ

繪本豊臣勲功記之編卷之九終



